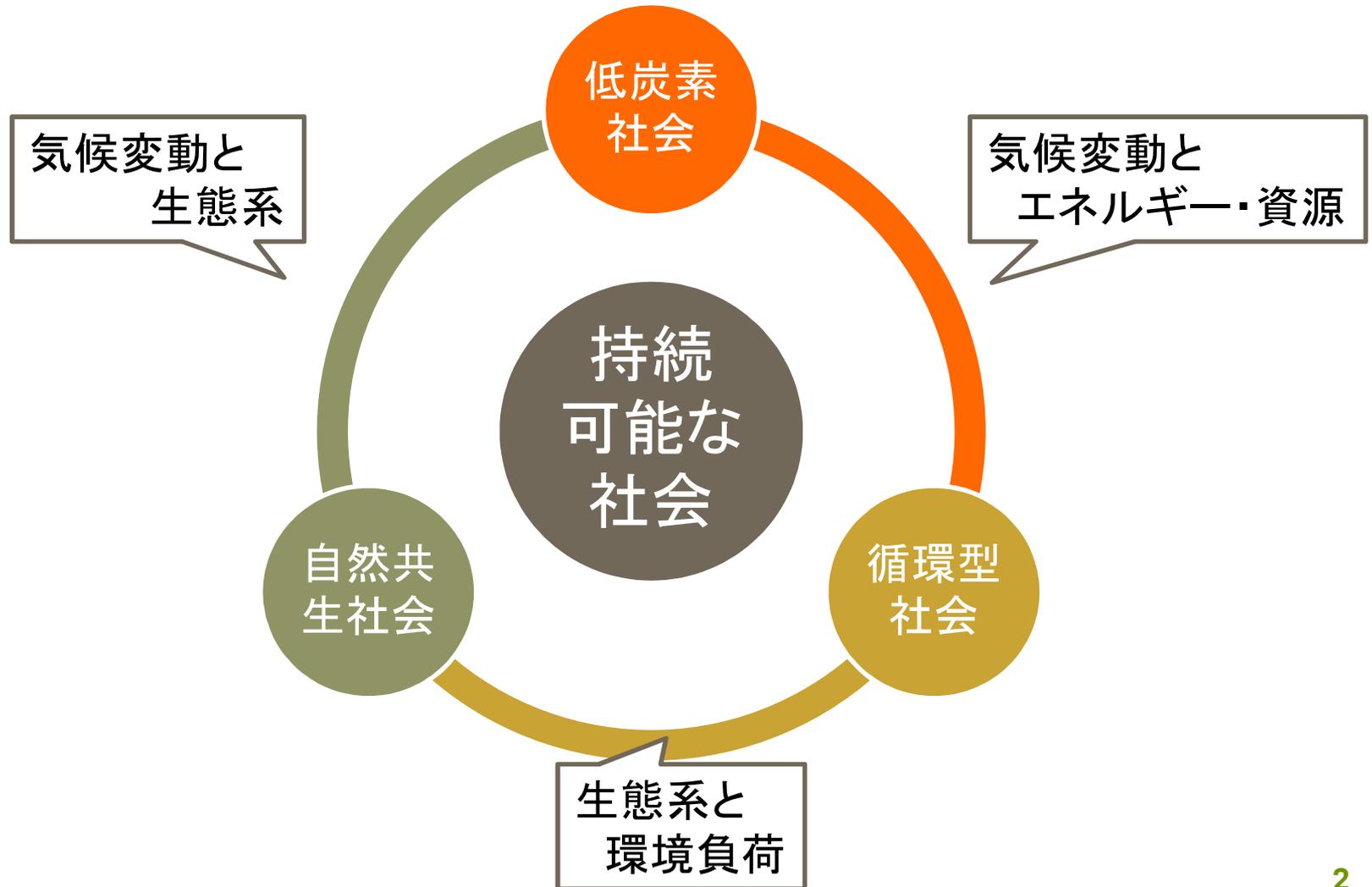


環境省(総合職理工系)の仕事紹介

環境省の抱えるミッション

～「環境」を軸に社会システムを創造～



拡大するフィールド

環境コミュニケーション
(環境アセスメント)



条約交渉・協力(気候変動)



環境配慮設計の促進
(家電リサイクル)



排ガス／排水
規制



国立公園管理



低炭素社会構築



震災からの復興(除染)



生物多様性保全

ダイナミックな変化

「政策＋事業＋国際官庁」

「政策官庁」

「規制官庁」

公害規制
からスタート

都市型公害・地球環境
問題の顕在化
⇒政策ツールが多様化
(経済、情報、情報、
国際交渉・・・)

- ・ ガレキ処理や除染など復興のための公共事業
- ・ 低炭素社会づくりのための具体的なプロジェクト
- ・ 日本の強みを活かした国際連携／国際協力

PROJECT FILE 01

日本発、世界のリーディング技術の
プロデューサーになる。

～国内初の「浮体式」洋上風力発電プロジェクト～

重量3400トン
風車直径80m
全長172m



1800世帯分の発電

魚が集まる
台風に強い
効率が高い

～国内初の「浮体式」洋上風力発電プロジェクト～

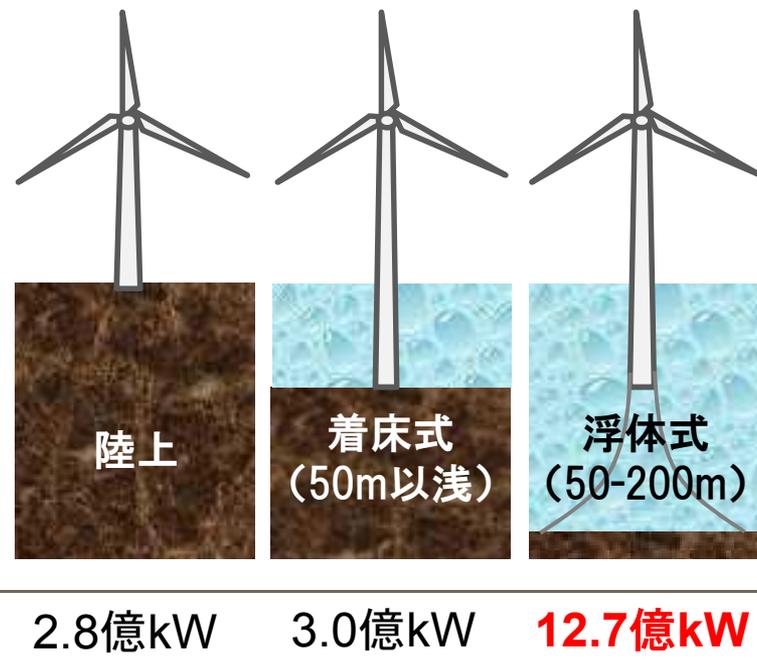
日本発、世界のリーディング技術の プロデューサーになる。

広い海域を有するが、浅い
海域は少ない日本。



洋上風力の
ポテンシャルの分布

長崎県五島市



浮体式の洋上風力は、着床式
よりも発電ポテンシャルが大！

普及の鍵となる漁業と協調した浮体式洋上風力発電
を確立し、全国へ展開

日本発、世界のリーディング技術の プロデューサーになる。



日本発、世界のリーディング技術の プロデューサーになる。

「浮体式」という海に浮かぶ風力発電の実証プロジェクトを担当しています。

2013年に日本初の本格的な浮体式風車の運転を開始しました。鋼鉄の本体の一部にコンクリートを使いコストを大きく削減し、戦後最大の台風にも耐えるなど日本独自の技術を取り入れています。

海上での設置作業は天候に大きく影響を受けるため、工程変更が多く、運転開始まで調整に苦労しました。

日本は陸上に風力の適地が少ないため、チャンスは洋上に広がっています。その先には海外があります。

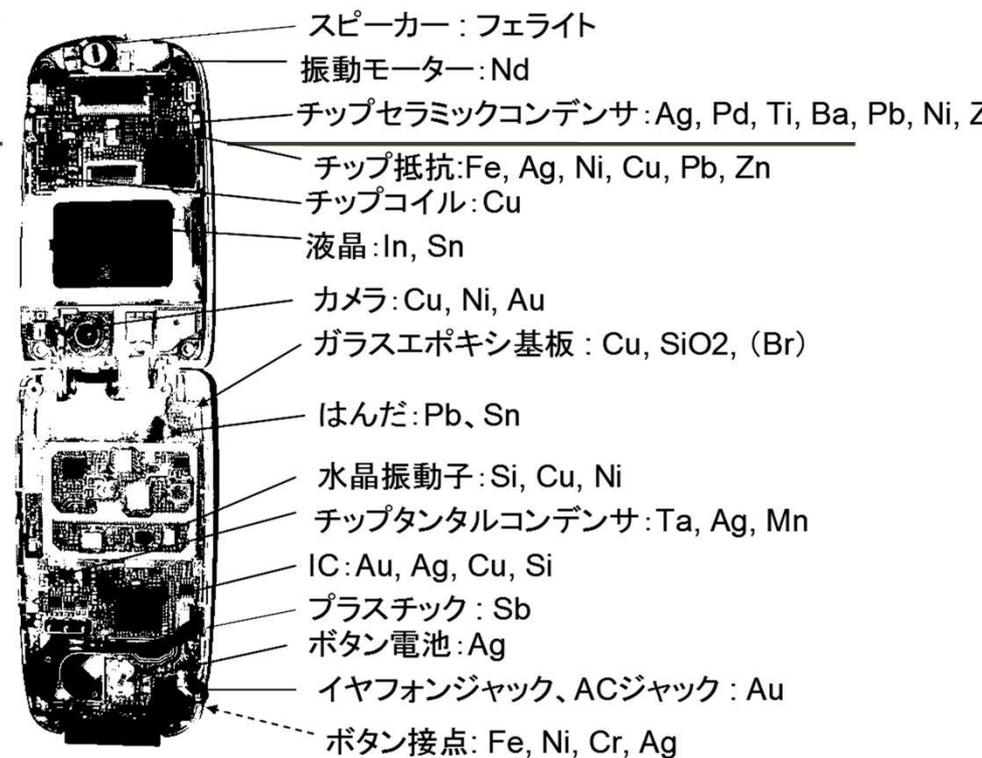
地球環境局
地球温暖化対策課 課長補佐
吉田 諭史（平成18年入省）

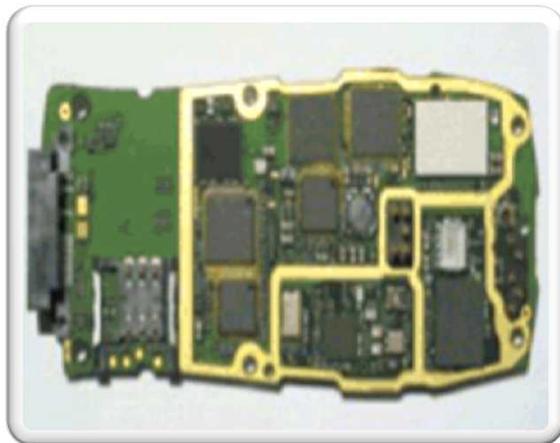


PROJECT FILE 02

世の中よりも早く

～都市鉱山を掘り起こせ！～





基板 1枚(140g)

金含有量

約48mg
(200円相当)



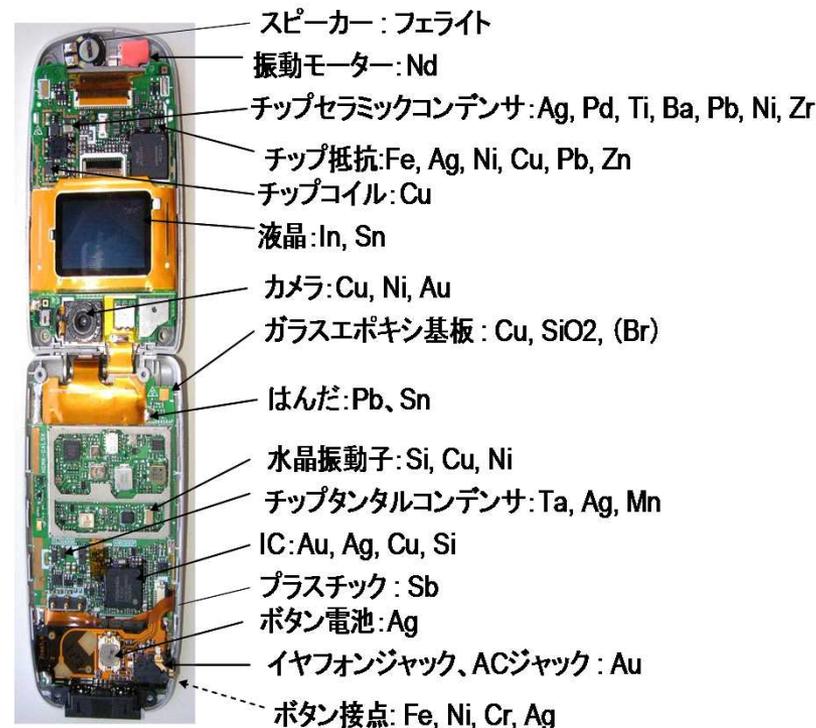
金鉱石 約53kg

～都市鉱山を掘り起こせ！～

世の中よりも早く

使用済みとなる小型家電には
大量の有用金属が含まれる
(年間総額844億円と試算)

「都市鉱山」とも呼ばれる



- ① 世界的に資源需要が高まる中、レアメタル等の有用金属を確保し、
- ② 金属採掘や廃棄物埋立に伴う環境負荷を低減するため、
⇒ 小型家電のリサイクルを促進。

世の中よりも早く

テーマとして
注目を集める

- ・モデル事業実施
- ・リサイクル技術の把握
- ・周辺情報の整理分析

- ・経済性分析
- ・制度設計
- ・関係者との調整

- ・法案作成
- ・基準の作成

- ・再資源化事業者の認定
- ・市町村の支援



- 現場を見に行く、現場の人々との対話、意見交換
- 調査の企画立案・実施(実測、予測、海外動向、etc.)
- 専門家・学識経験者からのヒアリング
- 審議会、政策対話、円卓会議
- ステークホルダー(関係者)との対話、意見交換、交渉

世の中よりも早く

関係者(大学の先生、家電業界、小売業界、廃棄物業界、製錬業界、貿易業界、市町村、県警など)のさまざまな対立する意見を踏まえ、日本の将来像を思い描きつつ、制度案を検討し、実際に法律として成立させる仕事でした。

自分たち担当者の手腕・知識量・努力しただいで、世のルールが決まるという、非常にやりがいのある仕事です(ただし、現場視察や関係者へのヒアリングがたくさんできるので、入省前の知識は不要です)。

その中でも、いくつかの分野は私に大きく任されていたため、若手ながら主導的な役割を果たすことができました。このような貴重な経験ができたのも、風通しの良い環境省ならではの思いです。

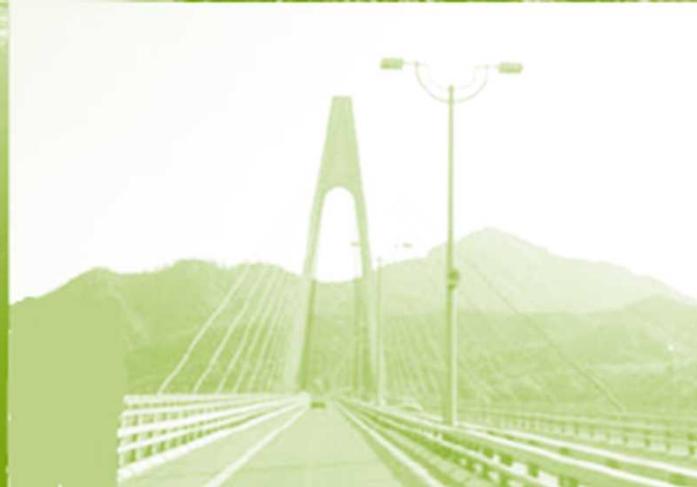


廃棄物・リサイクル対策部
リサイクル推進室 係員(当時)
佐藤 滋芳 (平成22年入省)

PROJECT FILE 03

未来を創る仕事

～環境影響評価法・10年の大改正～



未来を創る仕事

SEA
(戦略的
環境アセス
メント)

政策
Policy

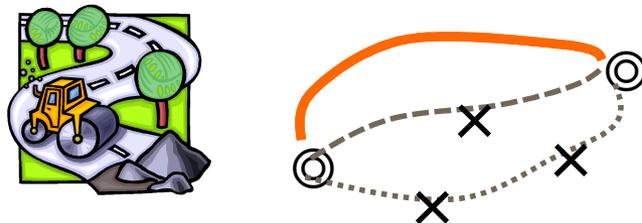
(例) 社会資本整備の戦略の検討段階
における配慮 等



改正法に基づく
「配慮書手続」
(位置・規模等
の検討段階)

施策
Program

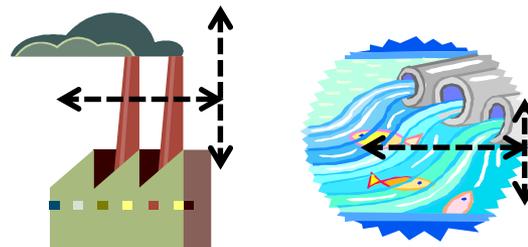
(例) ルート検討段階の配慮 等



EIA
(従来の
事業環境ア
セスメント)

事業
Project

(例) 煙突・排水口の配置・構造
(高さ・深さ)の変更 等



より柔軟な環境配慮が可能に

未来を創る仕事



未来を創る仕事

発電所を設置するといった大きな事業をする際に、予め環境にどのような影響があるのかを事業者自身が調べて評価するのが環境アセスです。

その制度に携わるとともに、環境影響に対する事業者の判断が正しいのか審査をしています。

例えば、「風力発電について、再エネ推進の立場から導入が必要だが、事業による自然環境への悪影響もないようにしなくては」といったように幅広く総合的な見地から審査する必要があるため、苦勞することも多いですが、実際の事業による環境影響を目に見える形で回避することができ、かつ事業も適切に進められる形を見いだすことができるよう、責任とやりがいを感じて日々取り組んでいます！



総合政策局 環境影響評価課 係長
中村 祥（平成20年入省）

PROJECT FILE 04

日本から世界へ
～日本の地名を冠した条約～



An aerial photograph of a city, likely in Japan, featuring a prominent winding river that curves through the urban landscape. The city is densely packed with buildings, and the surrounding area includes green hills and mountains under a bright, cloudy sky. A dark brown rectangular box with a white border is superimposed over the center of the image, containing the title text.

～日本の地名を冠した条約～

日本から世界へ

水銀に関する水俣条約

「Minamata Convention on Mercury」とは...

- 水銀の供給・使用から排出・廃棄に至るすべてのライフサイクルにわたって国際的に規制を進める条約
- 日本の地名を冠する4つ目の多国間条約・議定書(ちなみに、うち3つが環境関係)

日本から世界へ

水俣病対応及び化学物質対策を担う
環境省が主導し「水俣条約」を実現。

- アジア太平洋地域のコーディネーター
- 第2回交渉委員会(2011)及び外交会議をホスト
- 廃棄物管理分野での国際連携のリード国
- 排出インベントリ等作成
- 途上国の早期の条約締結に対する資金支援

⇒「水俣条約」命名を提案。

貢献が評価され、満場一致の支持を得る。

日本から世界へ



日本から世界へ

水俣条約の条文案を決定する会合に参加しました。各国の利害がぶつかる中、昼夜、公式・非公式を問わず、会議場のあらゆるところで交渉が行われました。交渉では、知力、体力、忍耐力、語学力、チームワーク等様々な資質が問われます。かなり追い詰められましたが、「水俣の歴史を繰り返さない!」「国際的に水銀対策を進めるべき!」との信念をもって交渉にのぞみ、結果として一定の評価をできる条約条文案が採択されました。その場に立ち会えたことを誇りに思います。

水銀に限らず、日本の公害対策・環境保全の制度、技術等を世界に伝えることは環境省の使命の一つだと思います。

(写真は水俣条約の採択後にUNEP関係者、外務省担当者と撮影したもの。右から2番目が筆者。©IISD)

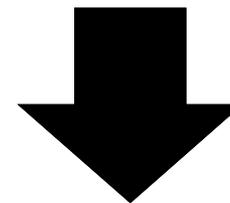
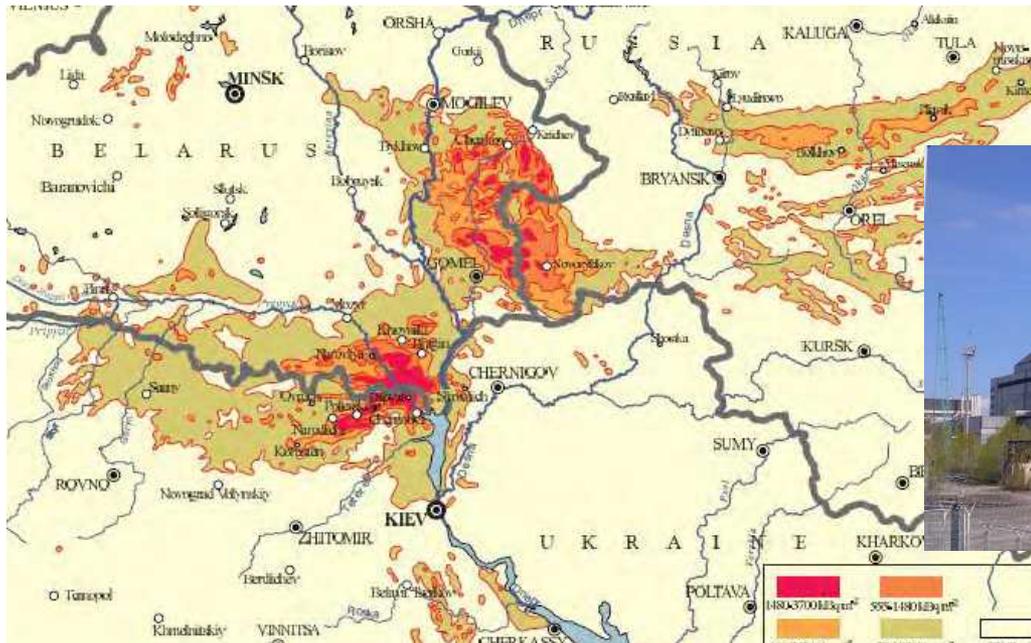


環境保健部 環境安全課 課長補佐(当時)
水谷 好洋 (平成9年入省)

Project File 05

世界初の挑戦、まずは一步前に。
～帰還、復興への第一歩～

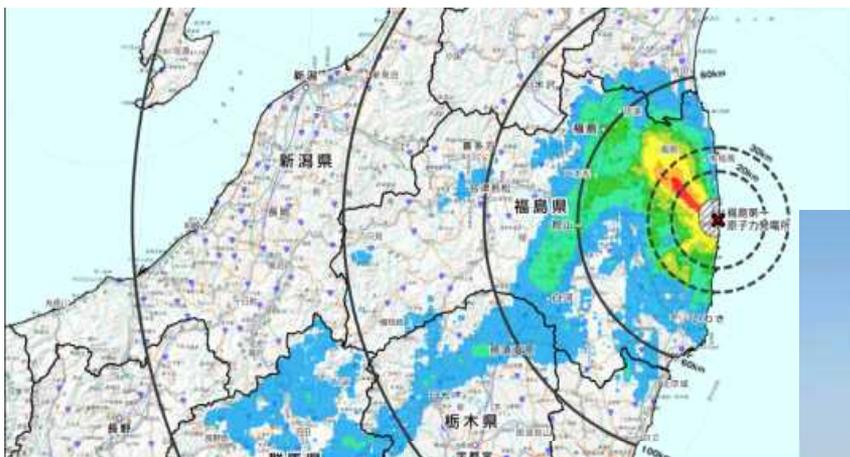
チェルノブイリ



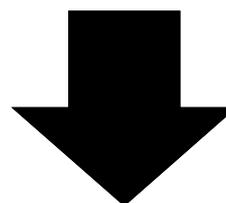
27年後…

30KM圏内、立入禁止。

福島



～帰還、復興への第一歩～



30年後…



世界初の挑戦、まずは一步前に。

- 福島第一原発事故による放射性物質汚染、それに伴う
 - 環境
 - 健康
 - 地域のきずなを回復するため。
- 一日も早く、被災者の方が元の生活を送れるよう、30年後、世界に今とは違う、**Fukushima**が示せるように。

世界初の挑戦、まずは一步前に



避難地域初の
帰還・復興に
向けた、第一歩

世界初の挑戦、まずは一步前に

福島で、除染土壌などの中間貯蔵施設の担当をしています。
中間貯蔵施設は、福島県内の除染土壌などを最終処分までの間集中的に貯蔵する施設で、
福島県の復興の推進に必要な施設として環境省が取り組んでいる事業です。

自分が計画・調査・設計したことが、目の前で実際に「形」となっていくことにやりがいを感じています。
世界初の挑戦であり、日々新しい経験ばかりで、とても刺激の多い職場です。
この事業に精一杯取り組み、少しでも福島の復興に貢献したいです。

水・大気環境局放射性物質汚染対策担当参事官室
中間貯蔵施設チーム 係長
小早川 鮎子（平成22年入省）



環境省で働くということ。

環境＝科学×工学×社会

- ◆ 中立・公正かつ大局的な視点で
環境政策を立案
- ◆ 専門的知識・センスを活かした
「原課」での活躍
- ◆ 国際交渉のプレイヤー

ひと味違う環境省



組織と人の強み

- ◆ 柔軟さ／チャレンジ精神
- ◆ 人材の多様さ
- ◆ 想いの強さ



ご質問は…

<http://www.env.go.jp>

saiyo@env.go.jp(事務系)

saiyo2@env.go.jp(理工系)



Facebook

「環境省 採用・キャリア形成支援」

<https://www.facebook.com/moecareer>